



小児科



私たち小児科は「こどもの総合診療医」として、小児特有の疾患全般について診療しています。島根大学小児科と密に連携しており、大学で稀少難治疾患に対応していただき、当科では急性期を中心に年間800例を超えるお子さんの入院を引き受けています。小児科入院例の特徴は、(1)6歳以下の乳幼児例が多い、(2)市中感染症を中心に幅広い分野の症例が多彩で豊富、(3)救急外来の症例が多いことです。日常遭遇する小児疾患に対して、国内外のエビデンスを基に、“明確な臨床診断のもと、安全で有効、しかも効率の良い治療”が行えるようところがけています。入院症例はチームで受け持ち、科内で常に診療情報を共有しながら、治療方針を協議して決定しています。臨床研修医の皆さんには、我々とともに1~2か月の小児科研修とERで小児への対応を行っていただいています。

また、地域周産期母子医療センターとして大学や近隣施設と連携しながら、後期早産児までの新生児を年間300例受け入れています。小児科研修期間にはハイリスク児の分娩立ち合いなど、小児科医、総合医として最低限の手技の理解を目指してもらいます。

臨床研修医の皆さんは、将来の島根の医療、そして小児医療を担っていただく大切な存在です。短い研修期間でも、臨床研修医の皆さんが立派に「こどもの総合診療医」として巣立っていけるように、そして、小児科専門医を志す人が一人でも多く現れるように、私たちは臨床指導に力を注ぎます。

